

# 割

六年

画数 12  
筆順

カツ  
わり・わるる  
さわる

成り立ち



「傷つける」という意味の「害(年467)」と、刀の形を表した「リ」とを組み合わせて作った字です。

「刀で傷つける」という意味の字です。

「刀で物を「切りさく」ことを表した字です。

「さく」とか「わる」という意味の使い方をしています。

また、「役割(役目を割り当てること。また、割り当てられた役目のこと)」というような使い方もあります。

### 使い方

▽夏休みの臨海学校で楽しかったことは、すいか割り。で、ぼくが見事にすいかを割ったことです。

▽わたしは、算数の割り算が苦手です。とくに文章題で割り切れない答えを出す問題が苦手です。

▽ぼくは体育が得意だとは言えませんが、割合に得意な方だと思っています。

### 熟語例

▽割合(ある数を他のある数と比べたもの。ある数を他のある数で割って数値を出すので「割合」と言います。また、「比較的」の意味に使います。割合に得意です。比較的得意です。)

▽割高(割合に高いこと。比較的高いこと。他の同じような物と比べてみて価が高いこと。)

▽分割(「分ける」こと。例)土地を三つに分割して三人の子に与えた。)

▽割拠(地方地方に分かれ、それぞれを根拠として争うこと。例)群雄割拠の戦国時代)

▽割愛(愛は「惜しむ」こと。切り取るのは惜しいと思いつながら、仕方なく省略すること。)

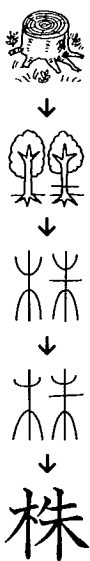
# 株

六年

画数 10  
筆順

カブ  
かぶ

### 成り立ち



もとの字は「朱」でした。「朱」は、「木」という字に、「切る印」の「一」を加えた字で、「木を切る」ことを表した字です。「木の「切りかぶ」のことです。

木の切りかぶの心の色が赤いところから、「朱色(赤い色)」の意味に使われるようになりましたので、「朱」に「木」を加えて「株」という字を作りました。

また、わが国では、「株」が「権利」の意味に用いられていましたので、「株式」ということばが作られ、「株式」とか「株券」の意味に使われるようになりました。

### 使い方

▽ぼくは木の切り株にこしかけて弁当を食べました。

▽わたしの家の庭には、梅の木が三株あります。

▽徳川時代の末には、貧しい旗本から、御家人株を買って武士になる商家や農家の若者がいました。

▽「株を買った」とお父さんが言ったので、ぼくは木の切り株なんかどうして買ったのかと思いましたが、それは株式会社の株券のことでした。

### 熟語例

▽三株(立ち木を数える時には、一株、二株と言って数えます。)

▽御家人株(旗本の家の権利)

▽株式会社(大きな資本で運営するため、株券を発行し、それを購入した人(株主)によって組織された会社のこと。)

▽株券(株式の証券。「出資した金額を証明する文書」のこと。単に「株」とも言います。)

▽株主(株券の持ち主のこと。)